

フリースクールでの SW 実践を考える⑤

高名 祐美

【フリースクールのソーシャルワーカーとして】

フリースクール（以下 FS）は不登校の子どもが集まる「もうひとつの学校」と言われており、学校に行けない・行かない子どもにとって“居場所”の一つとされている（石井光太 2019）。私がソーシャルワーカー（以下 SW）として、小さな FS に関わることになって 1 年半になる。その間、FS 利用者は 8 名、相談はあったが利用にまでつながらなかった事例は 4 名だった。どんな要因が不登校につながっているのだろうか。また FS を利用できた子どもにとって、私が勤務する場所はどんな意味をもったのだろうか。これまでの日々を振り返り、現状を分析することで SW である自分の役割を考えたいと思った。

そこで 1 年間の活動をまとめ、10 月に開催された『第 33 回北信越医療ソーシャルワーク研究会』に実践報告として発表した。7 分間という限られた発表時間。多くのことは伝えられず、まだまだだと思ったがひとまず現状の分析と自分自身の課題を整理するよい機会となった。

共にまとめる作業、発表までのプロセスに取り組み、適切なアドバイスをくれた MSW の上田氏に感謝したい。

【不登校の理由】

夏休み、FS も夏休みとなる。夏休みがあげると、利用を継続していた 2 名の子どもが登校を再開した。どんな要因が登校につながったのか、そこは明確にはなっていない。学校との連携が十分にできていないため、登校後の子どもの様子を知る事ができず、FS での活動の振り返りができないことは課題の一つだと感じている。もう少し子どもと一緒に過ごしたかったなと思った。そして「学校に行くよ」という言葉を子どもから聴きたかったなと思った。しかし、学校に行くことを自分で決めることができたのであれば、それが一番なのだと理解した。

二人が学校で過ごしている姿を想像していると、新聞では『不登校 最多 24 万 4940 人 コロナ学校活動制限 影響か』と見出しの記事が掲載されていた。2022 年度は 2021 年度より 24.9% 増えて、過去最高となった。（文部科学省の問題行動・不登校調査にて）。学校が判断した小中学生の不登校理由は「無気力、不安」が最多の 49.7%、「生活リズムの乱れ」が 11.7%、「いじめを除く友人関係」が 9.7% と続いたと記事に書かれて

いた。

私がFSで関わった子どもたちの不登校理由は、小学生では「学校が面白くない」「担任の先生が嫌い・怖い」「コロナ休校からの生活の乱れ」「ゲーム依存による生活の乱れ」「決められた時間割通りに過ごすのがいや」、中学生では「部活動での人間関係」「友人関係」であった。文科省の分析「無気力・不安」とはどんな状態を示しているのだろうか。私の関わった小学生は、学校の対応に対しての不満や、発達障害や疾患を持つことによる集団への不適應が不登校の要因になっていたように思う。

【はなちゃんとの関わり】

はなちゃんは小学校1年生。入学して10日過ぎたころから学校に行けなくなった。きっかけは、新型コロナウイルス感染者の濃厚接触者となったことだ。仲の良い友達が感染してしまい、はなちゃんは3日間学校を休むように指示された。待機期間が終わって登校再開したが、はなちゃんは学校に入ることを拒むようになった。母親が付き添って登校したが、玄関から入れなくなった。担任の先生が顔をみせると大声を出して暴れる。教室には行かずに、校長室で過ごす日もあったが、暴れることがだんだんひどくなり、先生たちもあきらめてしまった。そしてとうとう学校には行かなくなってしまった。

母親から聞いたはなちゃんが学校に行きたくない理由は、担任の先生の声や態度、表情だった。「声大きい」「言葉遣いが乱暴」「怒るときの顔つきが怖い」と感じていたはなちゃん。後に学校から聞いた理由とは異なっていた。

はなちゃんがFSにつながったのは、学校のスクールカウンセラーからの紹介だった。2週間に一度母親がカウンセリングを受ける中で、学校以外の居場所として紹介されたのがFSだった。はなちゃんのお母さんはさっそく見学にこられ、利用する運びとなった。そして私は、はなちゃんとお会った。

初めての利用日。はなちゃんはお母さんと一緒にやってきた。「ワンちゃんに会いたい」。それが私の勤務するFSにくることになったはなちゃんの動機だった。FSではトイブードルを4匹飼っている。4匹のうち2匹はとてもひとなつっこく、併設している高齢者のサービス利用者、学童の子どもたちにも人気である。時に一緒に遊んだり、散歩に出かけたりしている。はなちゃんはその犬に会いたくてやってきた。

「はなちゃん、こんにちは」と出迎えた私の顔をみると、眼をまん丸にして固まっていた。コミュニケーションは未熟で、問いかけには首を縦か横にふって答える。言葉があまり出てこない。「場面緘黙」という情報があり、会話には注意を払った。はなちゃんが答えやすいように、クローズド・クエスチョンで問いかける。問いかけすると、まずお母さんの顔を一度みる。そして首をふる。なかなか言葉はでてこなかった。まずはお母さんと一緒に時間を過ごし、関係づくり。好きなこと、楽しめること、学習につながりそうなことなど考えながら取り組んだ。

「犬と遊びたい」「折り紙で犬を折りたい」「絵の具で絵を描きたい」「カービィの人形で

一緒に遊びたい」。みんなお母さんからの言葉だった。はなちゃんの声はどうやったら聴くことができるのだろうかと考えながら過ごしていた。

「うん」「カービィ好き」「バイバイ」など少しずつ言葉がでてくるようになり、学習にも取り組めるようになった。そしてお母さんは、はなちゃんから見えない位置で過ごすことができるようになった。

次の目標を「FSを独りで過ごすことができる」とし、単独登校を促したところ、玄関からはなちゃんは動かなくなりFSに来れなくなった。焦ってはいけないと反省し、お母さんとの登校を再開した。近くの足湯温泉に出かけ、お母さんとはなちゃん、並んで足湯を楽しんだ。お母さんとの面接も実施し、はなちゃんのことを理解できるようつとめた。学校からも、担任の先生と学校長が「FSのでの様子を教えて欲しい」とやってこられた。スクールカウンセラーの方との面談も実現し、学校とFSの連携を深め、はなちゃんに適切な関わりができるよう取り組んだ。

学習にも集中してしっかり取り組み、そのあとにははなちゃんがやりたいことをする。そんな時間の過ごし方が定着し、はなちゃんは私の目をみて話してくれるようになっていった。そして夏休みがやってきた。

夏休みが明けて、FS1日目。管理者から「はなちゃん、2学期から学校に行くことになりました。最初は保健室登校しながら通級指導教室も利用するそうです。」と聞かされた。そうか、学校に行ったのか、よかったなと思いつつ、はなちゃんと会えなくなった寂しさが私の中にはあった。

そんなある日。図書館に行った私は、偶然はなちゃんの姿を見つけた。

SW：はなちゃん！？

はな：たかなさん。（私の名前を呼んでくれた、まっすぐに私の顔を見て。隣りにいたお父さんの方へは目を向けなかった）

SW：はなちゃん、久しぶりだね。

はな：（うなずく）

SW：（そばにいたのがお父さんだとわかったので）今日はお父さんといっしょなんだね。

はな：うん。

SW：そうか。あーちゃん（お母さんのことをこう呼んでいた）は？

はな：あーちゃんは、今、おうちにいるよ。（しっかりこたえてくれた）

SW：そうなんだ。お父さんと図書館。いいね。

はな：うん。

SW：本を貸りにきたのかな？

はな：うん。

SW：おもしろい本、あるといいね。じゃあ、高名さんはおうちに帰るね。

はな：うん。バイバイ。

SW：バイバイ。（振った手で私の手にタッチしてくれた）

たったこれだけの会話だったけれど、ものすごく心があたたかくなった。はなちゃん！しっかり私の顔を見て、私の名前を呼んで、そして言葉を発してくれた。場面緘黙じゃないよ。大丈夫だね、はなちゃん。

はなちゃんが自分の人生を振り返るとき、小学校1年生のときに“高名さん”という人に出会って、共に過ごす時間があったことを覚えていてくれたらと心から思った。